

要領様式第2号

出張報告届

令和5年10月17日

吹田市議会議長様

会派名 立憲民主党

代表者氏名 西岡 友和

出張者氏名 西岡 友和

.....
.....
.....
.....
.....

下記のとおり出張したので届け出ます。

記

出張先	第85回全国都市問題会議 青森県八戸市内丸一丁目1-1
期間	2023年10月11日～10月13日まで3日間
出張の成果	別紙のとおり
備考	



第 85 回 全国都市問題会議 参加報告

2023 年 10 月 17 日

西岡 友和

一般報告および基調講演を通じて、全国の自治体がかかえる様々な課題や取り組みの実情を詳細に聞くことが出来た。その中でも東京芸術大学の日比野学長から、芸術が街の中心となる可能性を秘めているとの訴えには、本市における取組にも通じると感じた。

博物館や美術館は教育機関としても機能し、広く市民の皆様に学習の機会を提供する事ができる。また、展示物やプログラムを通じて、芸術、歴史、科学などについての知識が深まり、学びの機会が提供される。併せて文化的なイベントや、展示物の発表、公演、ワークショップなどを開催する場所としても利用される。これが、重要な地域のハブとしての地位を確立し、地域社会を結びつける事が確認された。

一方、博物館や美術館は人々をつなげ、共感を生み出して異なるバックグラウンドを持つ、多様な性別、年代の市民を結びつける役割を果たす。これにより、芸術と文化の振興に寄与し、地元アーティストや文化的なプロジェクトが生まれる。

博物館や美術館は、都市の文化的な豊かさと魅力を高め、社会に多くの利益をもたらす重要な機関である。そのため、街の発展や文化的なアイデンティティの維持において欠かせない存在と言える。

これらは国立民族学博物館や市立博物館を要する本市において、重要な示唆となる。アートを中心とした街づくりは、文化的な豊かさを高め、社会に多くの利益をもたらす重要な役割を担っている。

また、スポーツツーリズムについての一般報告が東御市の花岡市長よりあった。ガンバスタジアムや新たに大規模アリーナを予定している本市において、まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用と合わせて検証する。

大規模なスポーツイベントやトーナメントは、環境への負担を増加させることがあり、持続可能性に対する課題が残る。交通渋滞など、最たる課題となる。またこれは、一部の地域や業態に収益をもたらす一方で、市民生活が犠牲になるなど経済的な不均衡が生まれることがある。

一方、多くのスポーツイベントは過度に商業化され、価格が高騰し、地元のファンや観光客にとって高い負担になることがある。本市におけるＪリーグの試合にしても決して気軽に購入出来るとは言えないし、ましてやＡ代表の試合やヨーロッパの強豪を招待した場合など、経済的格差が生じることも考えられる。

これらの課題において、スポーツイベントの利益を地域に還元する方法を模索することが求められる。地域の小売業、飲食業、宿泊業などに機会を提供し、経済的な均衡を取る必要がある。合わせて市民の皆様へ直接、メリットを感じてもらえるよう、市民招待イベントなどが必要となる。スポーツイベントのチケットや関連商品の価格設定において、地元の住民やファンにもアクセス可能な価格を提供することで、過度な商業化を回避し、広く市域の住民に提供することが不可欠となろう。

鹿島アントラーズの鈴木副社長からの一般報告では、人口6万7千人の街に、4万人を収容するスタジアムを抱えることが、はたして適切なのか、大きな不安からスタートした。一方、Jリーグ発足時からのオリジナルメンバーとして、地域密着型のクラブ運営を徹底してきた事については大きな自信を持っている。地元のファンがチームと一体になることで、共同運営をしてきたとの意識を共有できている。それが、チーム運営に対するアンケートの回収率の高さにつながり、多くのデータをもとにファンが求める事を年代や性別、家族構成など多岐にわたる分析をもとに、サービスを提供できる。それが当クラブの強さであるとの事だ。

今回の全国都市問題会議では、主に文化、アートとスポーツに焦点を当てた報告となった。吹田市は記述のとおり、多くのアート施設、スポーツ施設を抱える中核市として、市民と共に自治体の運営を共有する事が求められる。多くの気づきと示唆に富んだ会議であった。

以上